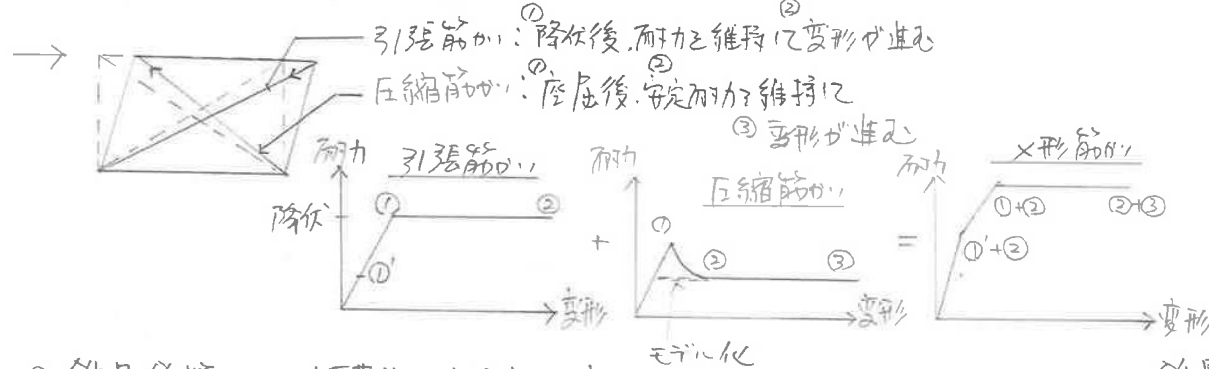


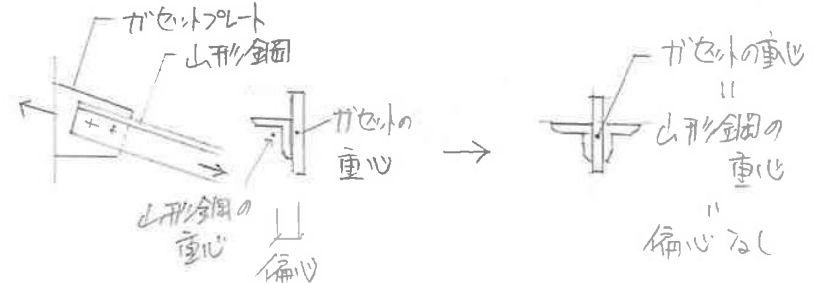
平成29年 No.25 建築物の構造設計

1. 保有水平耐力計算におけるX形筋かゝ → 引張筋かゝの耐力と圧縮筋かゝの圧屈安定耐力を合算できる
2. 山形鋼を用いた筋かゝ → 2本使用にガセットプレートとの偏心を小さくする場合がある
3. 鉄骨鉄筋コンクリート構造の非埋込形式の柱脚 → アンカーボルト、ハースプレート直下のコンクリート、及びハースプレート周囲の鉄筋コンクリートの曲げ耐力の累加
4. 鉄骨部材の許容圧縮応力度 → 断面二次半径を小さくするほど小さくなる

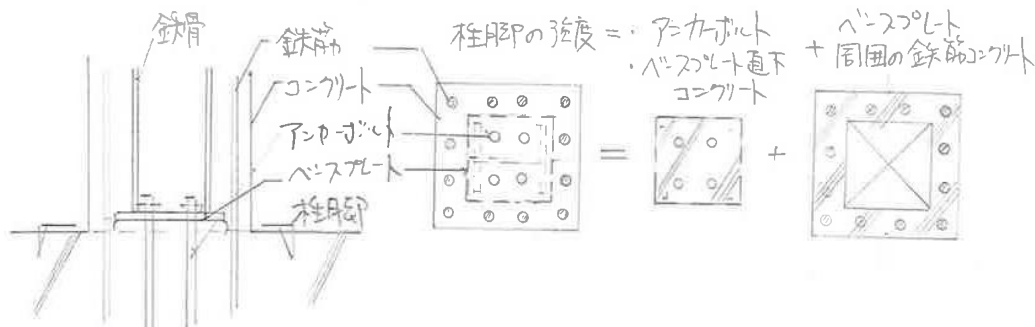
① 保有水平耐力計算におけるX形筋かゝ → 引張側筋かゝと圧縮側筋かゝ



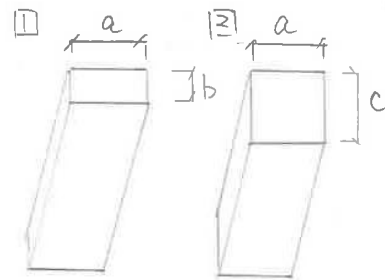
② 山形鋼を用いた筋かゝ → 2本使用にガセットプレートとの偏心を小さく



③ 鉄骨鉄筋コンクリート構造の非埋込形式の柱脚



④ 鉄骨部材の許容圧縮応力度 → 断面二次半径 $(i) = \left(\frac{I}{A}\right)^{1/2}$



貝目でも②の方が圧屈
11<11の方が分かる

④ ← 圧屈 (11<11)

$$\text{I} \quad I = \frac{ab^3}{12}, A = ab, i = \sqrt{\frac{I}{A}} = \frac{b}{\sqrt{12}}$$

$$\text{II} \quad I = \frac{ac^3}{12}, A = ac, i = \sqrt{\frac{I}{A}} = \frac{c}{\sqrt{12}}$$

$b < c$ ②の方が*i*が大き
↓
許容圧縮応力度が ← 圧屈 11<11 大きい